

地域・駅・新幹線ニュースレター

はっしん！ 新青森

青森県立青森西高等学校 Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School × 青森大学 AOMORI UNIVERSITY

2026年11月20日（金）
第74号【隔月刊・FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR東日本新青森駅

青森大学社会連携センター

青森カシスバターサンド販売開始

JR・青西高・地元企業が新しいお土産を開発

青森県立青森西高等学校の生徒たちが、地域の課題解決・魅力発信に取り組む授業「あおもり創造学」の一環として、地元特産のカシスを使った「青森カシスバターサンド」をJR東日本、合同会社あおなび（青森市）と共同開発しました。11月3日から販売を開始し、県内外の観光客から好評を博しています。

青森県は全国のカシス生産量の7割を生産しており、その多くが青森市で作られています。青森西高校第63回生の青森カシスゼミは、東北新幹線新青森駅開業15周年に合わせてカシスバターサンドのレシピを考案、JR東日本とあおなびが商品化しました。

販売が開始された11月3日には、部活動で参加できなかったゼミ生らに代わって、青西おもてなし隊が商品をＰＲ。商業施設A-FACTORYの特設コーナーで、生徒たちは「私たちが作りました」「とてもおいしいですよ！」と呼び掛け、来店者らは「頑張ってね」などと笑みを浮かべながら次々にサンドを買い求めていました。2年の品木來絆（らな）さんと高田小春さんはそれぞれ「最初は少し怖かった」、「でも、売れると本当にうれしい」と手応えを語っていました。





同日、青森駅自由通路では「あおもり駅まつり」が開催され、旧駅舎の「駅」の文字や鉄道設備に関する多様な展示、お菓子即売などが行われました。

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく㉞

交流6年、長万部高校を訪れて歓談

青森西高校の青西おもてなし隊一行が10月30日、長万部町を訪れ、長万部高校の佐藤漣太生徒会長らと交流しました。

長万部町には北海道新幹線・長万部駅が開設されます。長万部高校生らは、駅舎デザインの検討作業の一環として2021～23年、新青森駅を視察し、駅に近い青森西高校の生徒らと交流しました。その後、2024年からは青森西高校生が長万部高校を訪問するようになり、往来が6年目を迎えます。









今回は成田由希、藤本貴久両教諭の引率で、1年の蛯沢菜々さん、2年の品木來絆さん、高田小春さん、向後春慶（はるみち）さん、本間綸（いと）さんが参加し、長万部高校生5人が出迎えました。

西高校生は学校の概要や行事、部活動についてプレゼンを行い、学食の話題などで会話が弾みました。また、長万部高校は、町特産のエンリッチトマトソースを活用した駅弁「しゃ弁」の独自開発過程を紹介しました。同校の土屋靖雅校長は「互いの交流が今後も続いていくことを願います」と締めくくりました。

一行は町新幹線推進課の岸上尚生課長に新幹線関連事業の解説を受け、建設現場では鉄道・運輸機構の木谷純・長万部建設事務所工事長の説明で工法などへの理解を深めました。

「はっしん！」2027年3月終刊

当ニュースレター「はっしん！ 新青森」は、青森大学と青森県立青森西高等学校の高大連携事業として2019年6月に創刊し、今号で第74号を数えます。JR東日本・新青森駅のご協力をいただき、三内丸山遺跡センター、青森県立美術館のお力添えで、8年間にわたって刊行を続けてまいりました。

青森西高校が2027年度、青森県立浪岡高校と統合し、青森西ヶ丘高校として生まれ変わることから、現在のニュースレターは第76号（2027年3月刊行）で終刊することになりました。それ以降はオンライン等の形で、引き続き、駅を中心に地域を結ぶ活動を想定しています。詳細が決まりましたら、お知らせいたします。

消しゴム版画・ナンシー関の足跡

青森県立美術館 コレクション展2026-3

独特の質感「孤独な浮力 橋本尚恣」展

青森県立美術館で12月23日（水）まで、「コレクション展 2026－3」が開かれています。青森市出身の消しゴム版画家・コラムニスト、ナンシー関の作品（写真①②）や関連資料を取り上げた特集展示「ウェルカム・バック、ナンシー関！」、シベリアで戦病死した同市の版画家・松下千春の作品資料、同館の支援組織「青森県立美術館サポートシップ倶楽部」との共催による、独特の質感が印象的な青森市の版画家・橋本尚恣の「孤独な浮力　橋本尚恣」展（写真③）などを見ることができます。

ナンシー関は1962年生まれ、高校在学中に消しゴム版画を始め、法政大学に進学・中退後、1985年に消しゴム版画とコラムを組み合わせた雑誌連載をスタートさせます。その後、多い日には1日15時間もテレビを視聴しながら、見聞きした事象や人々の振る舞いを観察、多くの書籍や雑誌で発表し、その批評精神が強いインパクトを及ぼしました。しかし人気絶頂だった2002年に39歳の若さで急逝、5000点を超える消しゴム版画が残りました。

今回の展示は、劣化の危機にある消しゴムハンコをデジタルアーカイブする一般社団法人ナンシー関ボン研究所と京都工芸繊維大学KYOTO Design Labの共同プロジェクトに足並みを揃える形で開催されています。多くの消しゴムハンコと作品のほか、制作過程を示す資料なども注目です。

担当した学芸員の松江李穂さんは「私自身はナンシー関を直接知らない世代ですが、彼女を知る世代の方々の助言もいただきながら、消しゴムハンコの実物をはじめ『モノ』を見せることを意識しました。美術史的な文脈や、版画のまち・青森とのつながりなど“窓口”をいろいろなところに空けた展示にして、多様な楽しみ方ができるよう心がけました」と話しています。

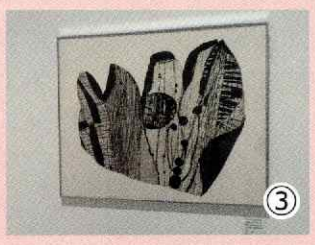
観覧料は一般700円、大学生400円、18歳以下および高校生は無料です。







また、青森県立美術館開館20周年記念の企画展「東日本大震災15年 志賀理江子 なぬもかぬも」が2027年3月14日（日）まで開かれます。観覧料は一般1,700円、大学生1,200円、18歳以下および高校生は無料です。同時開催のコレクション展とのセット券は一般2,060円、大学生1,320円です。



休館日は11月24日（火）、12月14日（月）、24日（木）～31日（木）、2027年1月1日（金）、12日（火）、25日（月）、2月8日（月）、13日（土）～25日（木）、3月8日（月）です。

20TH 青森県立美術館 AOMORI MUSEUM OF ART

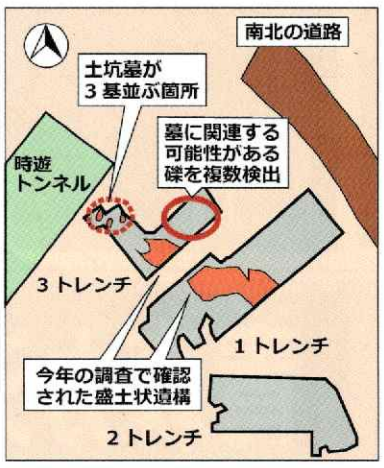
©2026　MOTOO KUSHIBIKI

＜ご自由にお持ち帰り下さい＞

ポスター等は許諾を得て使用しています

縄文中期後葉の盛土状遺構を確認

三内丸山遺跡　本年度の発掘調査説明会



三内丸山遺跡で 10 月 5 日、第 51 次となる本年度の発掘調査の現地説明会が行われました。

今年の調査は、縄文時遊館から遺跡への入り口となる時遊トンネルを出てすぐ右側、「第 2 号道路跡」（通称・南北の道路）沿いを対象に実施されました。これまでの調査で、時遊トンネルのすぐ横に土坑墓が 3 基みつかっており、これらの土坑墓の南側にどのような遺構が広がっているかを確認するのが目的でした。


①



②

3 つの調査区（トレンチ）を設定して発掘した結果、「南北の道路」に並行する形で北西から南東方向に、盛土状遺構が 30m 以上、延びていることが確認できました。すぐ下の地層から出土した土器片などから、縄文時代中期後葉（約 4600 年前）以降に造られたと考えられるそうです（右上の図）。

また、現地説明会の後に、土坑墓列の延長部分で、墓に関連する可能性が高い大型の礫（れき）が複数見つかりました。三内丸山遺跡では、土坑墓の周辺や上に石が置かれる例が確認されています。

本年度の調査は、5 月 26 日から 10 月 30 日まで行われました。

★写真①は 3 トレンチでの見学風景、写真②は 1 トレンチの盛土状遺構

新青森駅近く　三内地域 散策のすすめ　環境デザイナー 廣瀬俊介さん

栃木県在住の環境デザイナー・専門地域調査士（日本地理学会）の廣瀬俊介さんは、新青森駅に近い三内地域や国立松丘保養園を対象に、およそ 10 年前から創作や学術調査を行ってきました。廣瀬さんに、一帯の「散策のすすめ」について、寄稿していただきました。

2016 年に青森県立美術館で「青森 EARTH アウトリーチ 立ち上がる風景」という小さな展覧会を開く機会をいただいた、廣瀬と申します。テーマは、美術館と三内丸山遺跡のある三内地域周辺を対象に、道端や川べり、広場や公園を今よりさらに地域の風土に合うかたちにつくりかえる提案を行うというものでした。そのために、1 年をかけて沖館川の流域を水源のある山から海まで訪ね歩き、地域の自然や歴史、文化、ここに暮らされる方々のお話を伺うなどしてきました。

その中で、国立療養所松丘保養園を知り、はじめはただただその緑豊かな環境に興味を惹かれ、次にハンセン病問題について園の方々から教わることになりました。そして、自分にも何かお返しができることがあればと休刊中の同園の機関誌のかわりに年数回有志の会によって発行される「ばっけ通信」の制作を、ほんの少しですが手伝っています。

休刊中の機関誌は、「甲田の裾」といいます。これは、同園が八甲田山系からのびる大釈迦丘陵に連なる台地の先端近くに位置することをあらわしています。三内地域もこの台地の上にあります。八甲田山系から大釈迦丘陵に降った雪や雨は土の中に染み、海の方向に向かって流れ下りながら、各所で湧き出したり染み出したりします。三内丸山遺跡の方々にある湿地も、これらの水が染み出してできています。松丘保養園にも水が染み出す箇所がいくつかあり、池がつくられるなどしています。松丘保養園と三内霊園の間のため池も、谷の始まりから染み出す水を受けてつくられたものと考えられます。



三内霊園と松丘保養園の間のため池をわたる道（廣瀬画 2016）

このように、小さな水辺が方々にある三内周辺地域の風景に魅力を感じながら描いた絵の一つが、右の絵です。三内霊園からため池をわたる途中、松丘保養園のこれも水が染み出してできた小さな谷の方を眺めて描きました。時季は、梅雨入り前の 6 月上旬でした。この池から下る水は、笹森池から下る水とともに、沖館川へ合流します。笹森池からは、八甲田山系がよく見えます。

絵に描いた場所は、新青森駅から 1.1km、徒歩 15 分ほどの距離にあります。三内霊園へ通じる並木道を歩き、園の中央の円形交差点からため池をさして園内を歩くのもよいですし、それより手前の並木道がため池とそこからのびる水路を横切るところで、池に沿って水辺を歩くのもまた気持ちがよいと思います。森が青々として感じられる 5 月をはじめ、それぞれの季節の魅力をぜひ楽しまれてください。

三内丸山遺跡センター

見学時間　9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
（春の大型連休中と 6 月 1 日～ 9 月 30 日は 18:00）
休 館 日　毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観 覧 料　一般：500 円（400 円）大学生等：250 円（200 円）
高校生以下：無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット呈示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ　〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-8282 ／ FAX.017-766-2365
URL https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp



青森県立美術館

開館時間　9:30～17:00（入場は16:30まで）
休 館 日　不定休（青森県立美術館HP参照）
観 覧 料　一般700円（560円）／大学生400円（320円）／
18歳未満および高校生以下　無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※企画展は別料金。

お問合せ　〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 ／ FAX.017-783-5244
URL https://www.aomori-museum.jp

新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約 15 分·300 円、タクシー（南口）約 10 分、徒歩約 30 分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約 11 分·300 円、タクシー（南口）約 10 分、徒歩約 40 分

Facebook ページ
Instagram アカウント
＜ネット情報＞
Facebook ページと Instagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部
櫛引素夫　電話 017-738-2001 内線 731

FB ページ　Instagram　青森大学社会連携センター

©2026 MOTOO KUSHIBIKI　＜ご自由にお持ち帰り下さい＞　ポスター等は許諾を得て使用しています